



グリムの森イルミネーション



お菓子の家  
(グリムの森内)



# 第二次下野市観光振興計画

～観光資源のネットワーク化を目指して～

いしばし納涼踊り・花火大会



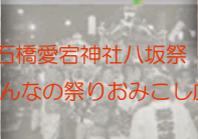
ツバキヤ



JR石橋駅前からくり時計



姿川アメニティパーク (みんなの祭りおみこし広場)



石橋愛宕神社八坂祭



石橋地区都市農村交流施設  
(ゆうがおパーク)



薬師寺八幡宮



下野薬師寺歴史館



機織形道輪



淡墨楼



下野市役所



薬師寺復元回廊



三王山ふれあい公園



しもつけ風土記の丘資料館



古民家カフェ「夜明け前」



天平の芋煮会



小金井一里塚



薬師川



道の駅しもつけ



国分寺地区コミュニティ踊り花火大会



オアシスポップ館  
(下野市観光協会)



旧古田農協倉庫

## はじめに

平成31（2019）年のラグビーワールドカップ、平成32（2020）年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により世界から日本への関心が高まる中、観光庁ではインバウンド増加の効果を全国津々浦々に届けることを課題としています。

また、栃木県内においては平成34（2022）年の第77回国民体育大会「いちご一会栃木国体」の開催を控え、さらなる交流人口の拡大が見込まれています。



人口減少・少子高齢化が進む中、地方創生を実現する切り札のひとつとして、観光が注目を集めており、本市においては観光振興を図ることで、市民の皆様には郷土に誇りと愛着を持ち「住み続けたい」と、観光客の皆様には「来てよかった。また来たい」、さらには「住んでみたい」と思えるまちづくりを目指してまいります。

本市では、平成26（2014）年9月に下野市観光振興計画を策定し、下野薬師寺跡、下野国分寺・国分尼寺跡、小金井一里塚の4つの国指定史跡をはじめ、数多くの国、県、市指定の文化財、「天平の花まつり」や「グリムの森イルミネーション」などの多彩なイベント、さらに「道の駅しもつけ」など、様々な観光資源を活用した「観光まちづくり」を基本方針として展開してまいりました。

近年、「ゆうがおパーク」や「古民家カフェ」、「お菓子の家」などの新たな観光資源が加わったことから、既存資源と合わせた観光資源のネットワーク化を図り、新たな観光ルートやイベント等の創出を行うため、ここに第二次下野市観光振興計画を策定しました。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり、貴重なご意見、ご提言をいただきました下野市観光振興計画（第二次）策定委員、及びご協力を賜りました市民の皆様には心から感謝を申し上げます。

平成31（2019）年1月

下野市長 広瀬寿雄

# 目 次

第1章 計画策定の基本的な考え方	
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置付け	1
3 計画の策定体制	2
4 計画の期間	2
5 下野市の概要	2
6 国・県の動向	4
第2章 観光を取り巻く現状と課題	
1 国内観光の状況	5
2 県内観光の状況	6
3 下野市の観光の状況	8
4 下野市の観光資源の特色	12
5 下野市の観光の課題	17
図1 歴史遺産と観光関連施設分布マップ	19
第3章 下野市の観光振興の基本方針	20
第4章 下野市の観光振興における体系	
1 施策・事業一覧	21
2 施策の展開	
基本施策1 魅力ある観光の推進	22
施策1-1 観光プロモーションの推進	
施策1-2 観光協会の充実・強化【重点施策】	
施策1-3 観光施設の環境整備・充実	
施策1-4 郷土愛の醸成	
基本施策2 観光資源の創出	34
施策2-1 新たな観光資源の開拓【重点施策】	
施策2-2 下野ブランドの拡充・活用	
施策2-3 広域観光との連携・推進	
基本施策3 インバウンド対策	41
施策3-1 インバウンド対策	
第5章 計画の推進	

1. 計画推進と進捗評価の考え方	43
2. 市と観光協会の役割の明確化	44
資料1 下野市観光振興計画策定員会設置要綱	45
資料2 下野市観光振興計画策定委員会委員名簿	47

※平成31年5月より元号が変更となりますが、策定年度時点で新元号が決定していないため、便宜上元号を「平成」と表記し、西暦を併記するものとします。

# 第1章 計画策定の基本的な考え方

## 1 計画策定の趣旨

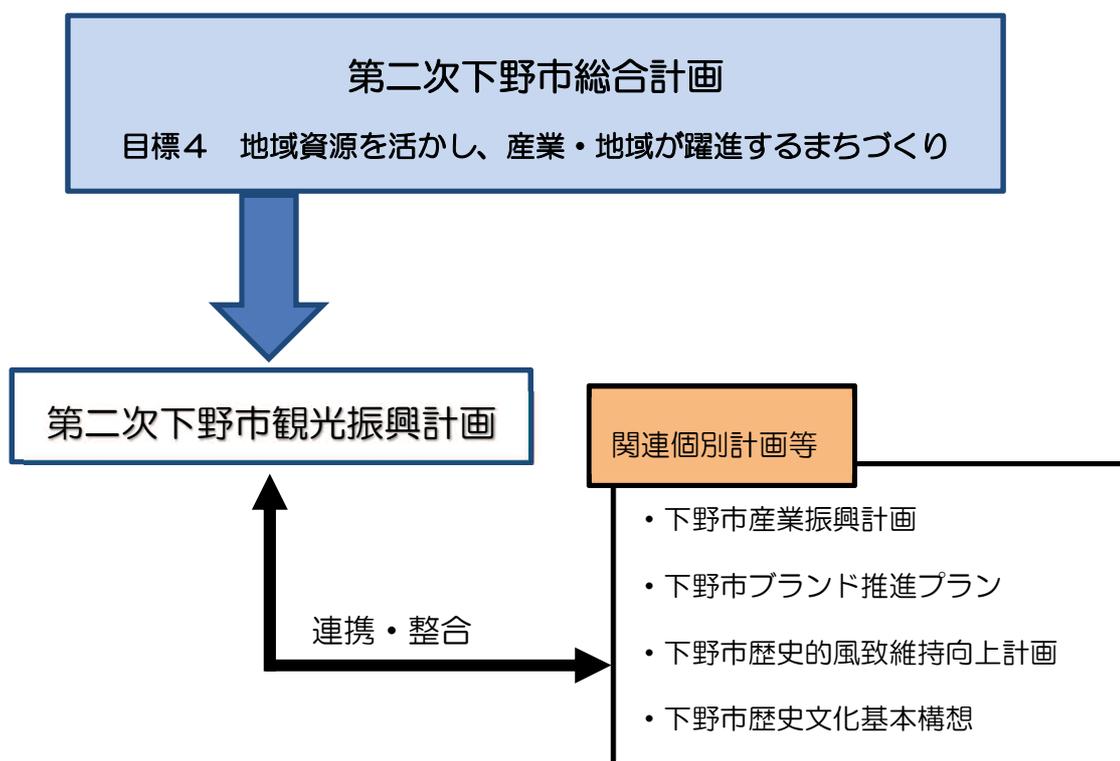
人口減少、少子高齢化が進む中、地域の経済を潤し再生させるには、交流人口の拡大が必要であり、観光は大きな経済波及効果を有する施策として期待されています。

また、平成32（2020）年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、インバウンドによる消費増加も期待されており、モノの所有に価値を見出す「モノ消費」から、日本の文化・自然を体験・体感する「コト消費」にシフトするなど、外国人旅行者のニーズにも変化が見られます。

これらの状況から、交流人口の獲得、定住人口の確保を図り、地域の活性化を目指すため、行政や観光事業者のみならず、市民も一体となり下野市の観光に取り組む上での目標となる第二次下野市観光振興計画を策定します。

## 2 計画の位置付け

本計画は、第二次下野市総合計画前期基本計画基本施策4-3「魅力ある観光まちづくり」に位置付けられている施策1「魅力的観光の推進」及び施策2「観光資源の創出」に関する具体的な施策を定めた個別計画として策定するものです。



### 3 計画の策定体制

計画の策定にあたっては、市産業振興部長、下野市観光協会事務局長、旅行事業者、交通事業者、飲食業者、関係機関・関係団体の代表、市民グループの代表など16名で構成する「下野市観光振興計画（第二次）策定委員会」において協議・検討を行います。また、素案作成後に、パブリックコメント（注）を実施し、広く市民の意見把握と反映に努めます。



### 4 計画の期間

本計画は、平成31（2019）年度を初年度とする平成35（2023）年度までの5か年計画として策定します。なお、計画策定後は進捗状況の把握に努めるとともに、観光を取り巻く社会的情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

## 5 下野市の概要

### （1）位置と地勢

下野市は、関東平野の北部、栃木県の中南部に位置し、都心から約85km圏にあり、首都圏の一端を構成しています。南北約15.2km、東西約11.5kmで、北は県都宇都宮市、南は小山市、東は真岡市（旧二宮町）と上三川町、西は栃木市と壬生町に接し、面積は74.59平方キロメートルです。

東に鬼怒川と田川、西に思川と姿川が流れる高低差のあまりない、古来より開けた平坦で安定した自然災害も少ない地域です。

<用語解説>パブリックコメントとは

公的な機関が規則あるいは命令などの類のものを制定しようとするときに、広く公に、意見・情報・改善案などを求める手続きをいう。

JR宇都宮線の自治医大駅を中心にニュータウンによる新市街地が拡がり、日光街道沿いの小金井や石橋の旧宿場町とその周辺部の田園地帯とともに下野市を形成しています。

## (2) 交通体系

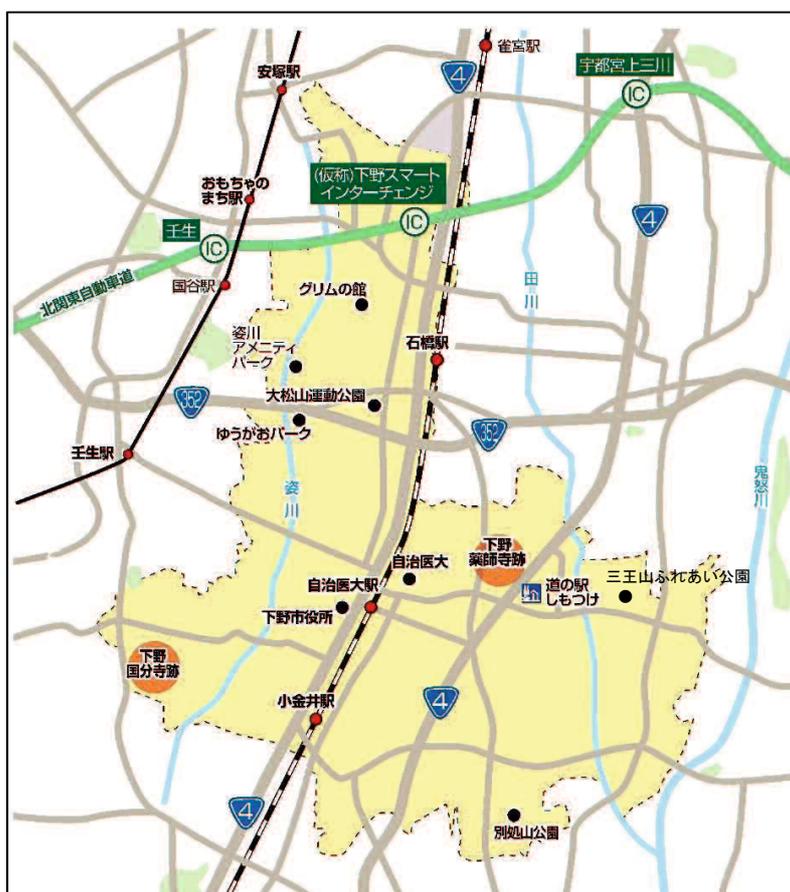
下野市は、古くから日光街道の通る交通の要衝となっていました。

現在、鉄道は南北に縦貫するJR宇都宮線に、北から石橋駅、自治医大駅、小金井駅の3つの駅があります。

道路は、南北軸に国道4号及び新4号国道、東西軸には国道352号が通っています。

また、北関東自動車道が市の北部を通過しており、最寄りの宇都宮上三川インターチェンジ（IC）、壬生ICまでは約20分、東北自動車道の鹿沼IC、栃木ICまでも約30分の距離にあります。

さらに、平成35（2023）年3月には北関東自動車道に（仮称）下野スマートインターチェンジの供用が開始される予定であり、これらの恵まれた交通網により、首都圏から本市まで1時間半程度で来訪できる環境となっています。



## 6 国・県の動向

### (1) 国の動向

国は、観光立国推進基本法の規定に基づき、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民経済の発展、国民生活の安定向上、及び国際相互理解の増進を図るため、平成29（2017）年に観光立国推進基本計画の見直しを行いました。

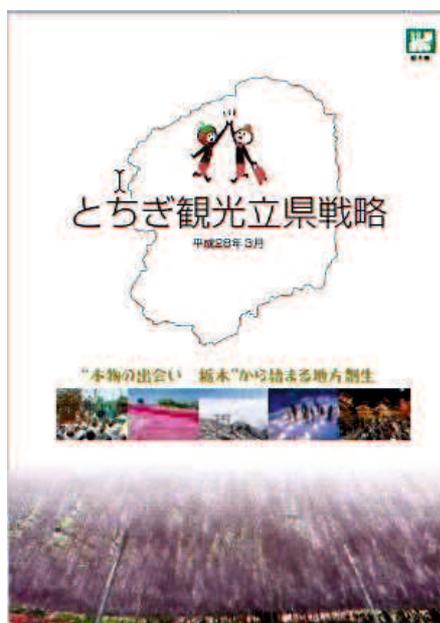
この計画において、観光は「地方創生への切り札」であり、「世界が訪れたいくなる日本」への飛躍を図ることを目的としており、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される平成32（2020）年には訪日外国人旅行者数を4千万人、消費額8兆円を目標としています。

### (2) 栃木県の動向

栃木県では、平成23（2011）年に発生した東日本大震災等の影響により、観光入込客数・宿泊数は大きく落ち込みましたが、震災復興や風評被害払拭にオール栃木体制で取り組んだ結果、観光客宿泊数は概ね震災前の水準まで回復しました。

更なる観光振興を図るべく、今後取り組むべき施策の方向性を明らかにし、県、市町、観光事業者、観光関連団体、県民等が協働して取り組むための新たな指針として平成28（2016）年に「とちぎ観光立県戦略」を策定しました。

観光振興施策の基本方向として、「とちぎの魅力で“惹きつける”」、「とちぎの魅力で“呼び込む”」、「とちぎの魅力で“もてなす”」、「みんなで“創る”観光立県とちぎ」を掲げています。



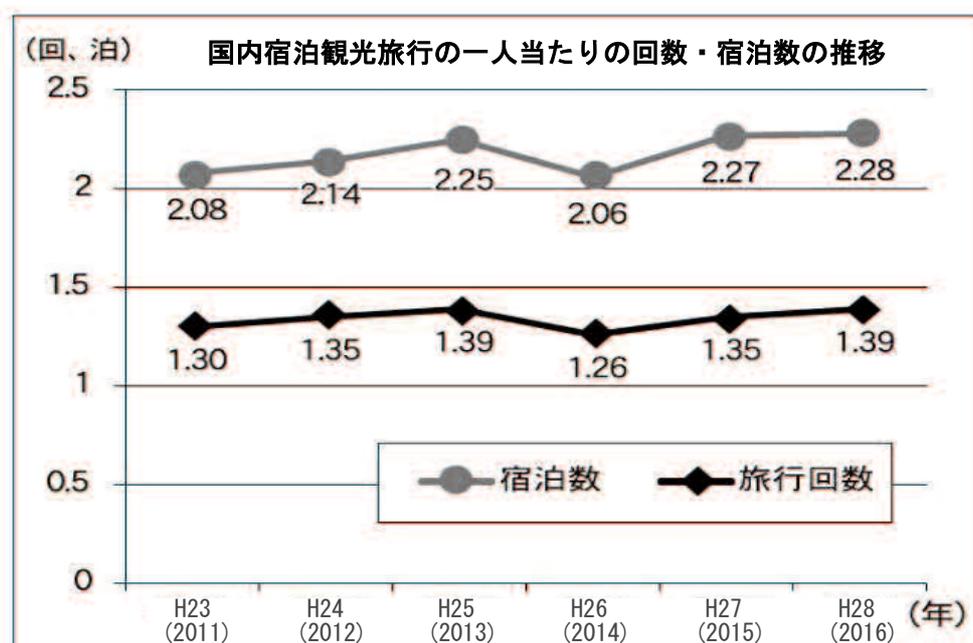
## 第2章 観光を取り巻く現状と課題

### 1 国内観光の状況

#### (1) 国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移

平成28(2016)年の国民一人当たりの国内宿泊観光旅行回数は1.39回(前年比2.9%増)であり、一人当たりの宿泊数は2.28泊(同0.4%増)で、宿泊数は平成23(2011)年以降の最高値、旅行回数は平成25(2013)年と同数でした。

また、日本人の国内観光旅行者数は、日帰り旅行については延べ3億1,542万人(前年比8.1%増)となりました。

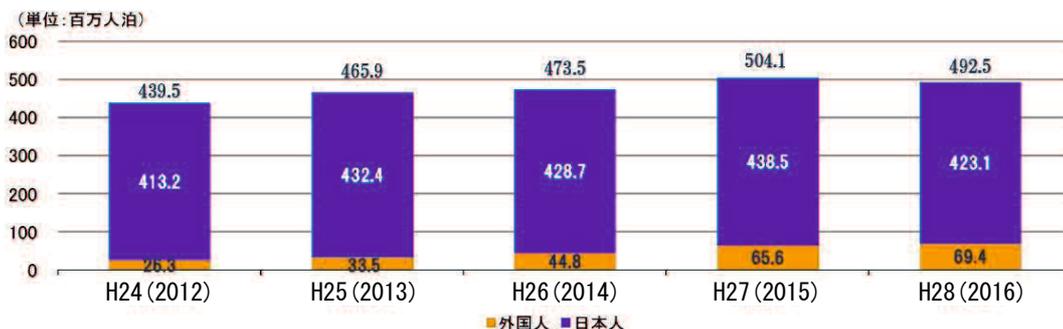


平成29(2017)年度版観光白書(観光庁「旅行・観光消費動

#### (2) 宿泊者数の推移

我が国の宿泊者数の推移は、平成28(2016)年は492.5万人であり、前年よりは減少していますが、平成24(2012)年と比較すると12.1%の伸びを示しています。

## 一年別・延べ宿泊者数推移(H24(2012)～H28(2016))

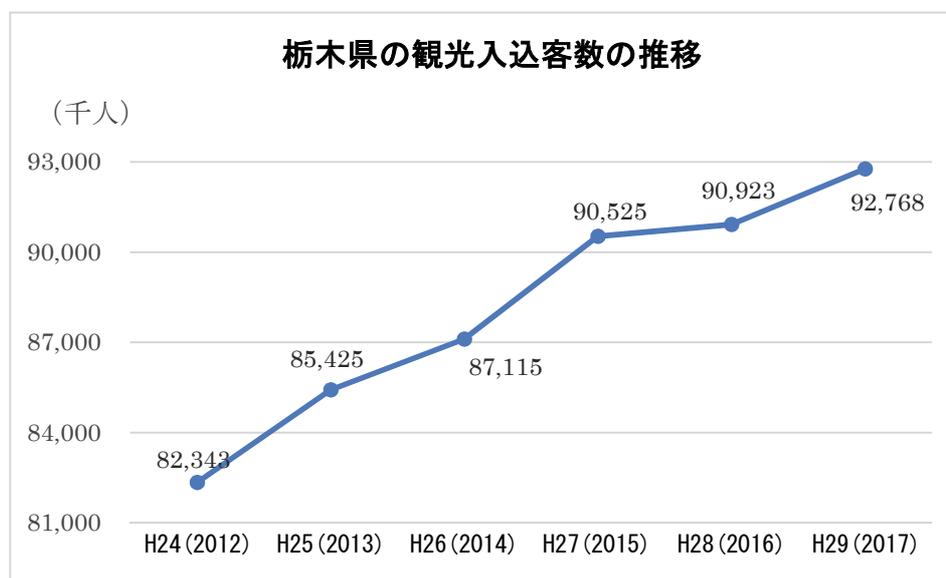


※上表の青字にした数値は、日本人及び外国人の延べ宿泊者数を合計した全体の数値である。  
平成28(2016)年宿泊旅行統計調査

## 2 県内観光の状況

### (1) 栃木県の観光入込客数(注)の推移

平成23(2011)年の東日本大震災の影響もあり、栃木県の観光入込客数は一時大幅な落ち込みとなりましたが、平成29(2017)年には9,277万人となり、平成24(2012)年と比較すると1千万人増加しました。平成30(2018)年はJRグループによるデスティネーションキャンペーン(注)「本物の出会い栃木」の効果により更なる増加が見込まれます。



(平成29(2017)年栃木県観光入込客数・宿泊数推定調査より)

### (2) 県内の市町別観光入込客数

市町別にみると、宇都宮市の1,499万人(県全体の構成比16.2%)が最も多く、次いで日光市の1,210万人(県全体の構成比13.0%)、那須塩原市936万人の順となり、下野市は236万人で25市町中15位(県全体の構成比2.5%)となっています。



<用語解説>観光入込客とは

日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的とせず、「観光地」や「行事、祭り、イベント」を訪れた者。

観光入込客数は、以下の条件を満たす（行祭事、イベントについては②及び③）場所を「観光地点等名簿」に記載し、その地点の入込客数を集計する。

- ①非日常利用が多い（月1回以上の頻度で訪問する人数の割合が半分未満）と判断される地点であること。
- ②観光入込客数が適切に把握できる地点であること。
- ③前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上であること。

<用語解説>デスティネーションキャンペーンとは

北海道旅客鉄道（JR北海道）・東日本旅客鉄道（JR東日本）・東海旅客鉄道（JR東海）・西日本旅客鉄道（JR西日本）・四国旅客鉄道（JR四国）・九州旅客鉄道（JR九州）のJRグループ旅客6社と指定された自治体、地元の観光事業者等が共同で実施する大型観光キャンペーン。

平成30（2018）年度は、4月1日から6月30日まで「本物の出会い 栃木」として、栃木県で開催された。

### 3 下野市の観光の状況

#### (1) 下野市観光入込客数の推移

平成23（2011）年に「道の駅しもつけ」が開業し、観光入込客数が平成24（2012）年には300万人を超えるなど、下野市の観光資源の中心として観光入込客数を支えてきましたが、平成29（2017）年は道の駅しもつけのオープン以降最も少ない観光入込客数となっております。

しかし、市内で開催されるイベントには、「天平の花まつり」、「天平の芋煮会」、「グリムの森イルミネーション」などがあり、それぞれ来場者数は増加している状況にあります。

また、平成30（2018）年4月には天平の丘公園内の民俗資料館「夜明け前」をリノベーションし、古民家カフェとしてリニューアルオープンしたことで、同公園の来場者が増えています。

今後、下野市の観光入込客数の増加につなげるため、従来の観光資源のブラッシュアップや観光資源のネットワーク化を図ることが重要な戦略となります。



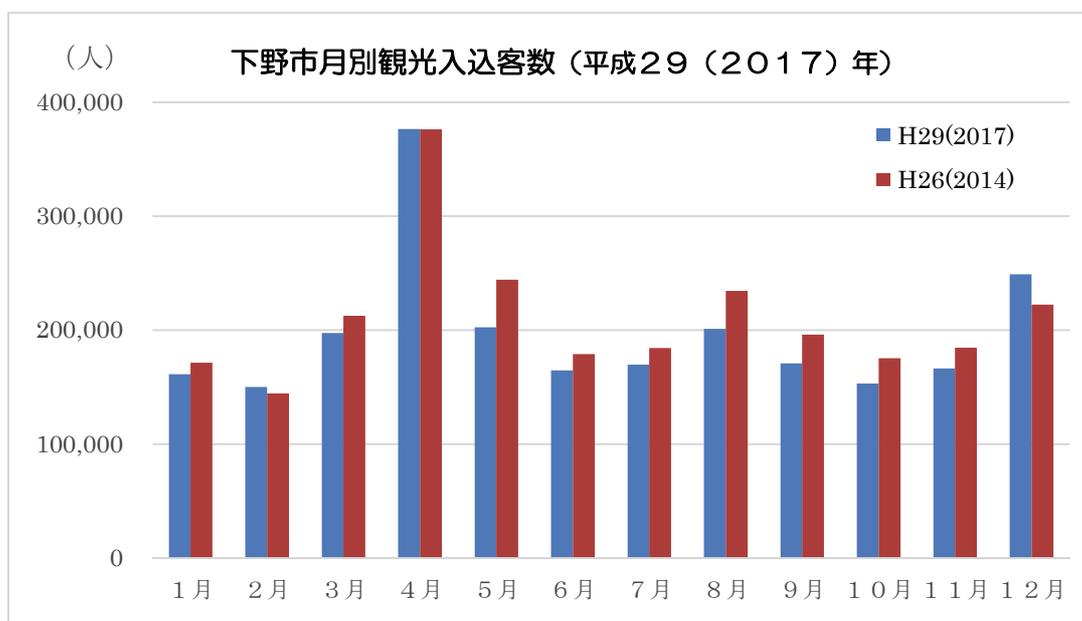
天平の花まつり



天平の芋煮会

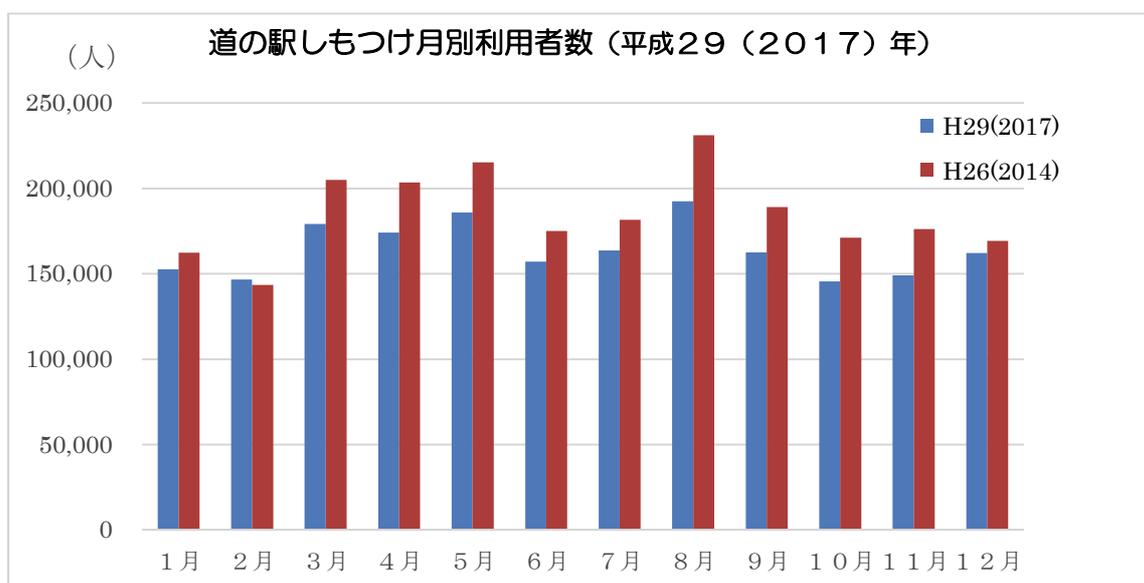
## (2) 下野市月別観光入込客数（平成29（2017）年）

下野市の月別観光入込客数については、4月に「天平の花まつり」が開催されることから、例年高い入込客数となっています。全体的に減少傾向にありますが、「グリムの森イルミネーション」の認知度が上がり、来場者が増加傾向にあることから、12月のみ入込客数が伸びています。



## (3) 「道の駅しもつけ」月別利用者数（平成29（2017）年）

下野市の観光入込客数のうち、「道の駅しもつけ」の利用者数が大きく影響しており、全体的に減少傾向にあります。



・Tカードの利用状況に基づく来場者分析

道の駅しもつけはTカードの提携店になっており、お買い物の際、Tカードのポイントで支払い、ポイントの付与などのサービスが受けられるようになっています。

レジを通過したTカードの登録情報から利用者の統計を取ったところ、1年間で1,000人以上の利用があった都道府県別利用者数は次のとおりです。

平成29（2017）年度道の駅しもつけ 都道府県別利用者数（1,000人以上）

	都道府県名	利用者数		都道府県名	利用者数
1	栃木県	89,000人	5	千葉県	6,000人
2	茨城県	27,000人	6	神奈川県	3,000人
3	埼玉県	19,000人	7	群馬県	2,000人
4	東京都	7,000人	8	福島県	1,500人

同様に市町村別の利用者数（1,000人以上）は次のとおりです。

下野市は全体で3位となっており、下野市以外の県内市町では、宇都宮市、小山市、真岡市、栃木市、上三川町、壬生町など隣接する市町、また、茨城県筑西市、結城市のように、県外ではありますが下野市から15km圏内にある自治体からの利用が多くあります。

その他には、茨城県下妻市は国道294号、茨城県古河市、埼玉県春日部市、幸手市や千葉県野田市については新4号国道といった幹線道路を利用しての来訪が考えられます。

こういった点や隣接県でも群馬県や福島県からの来訪が極端に少ない点を見ると、道の

平成29（2017）年度道の駅しもつけ市町村別利用者数

1	宇都宮市	25,084
2	小山市	13,112
3	下野市	11,637
4	真岡市	9,251
5	筑西市	6,739
6	栃木市	6,388
7	古河市	5,608
8	上三川町	4,991
9	結城市	3,900
10	壬生町	3,017
11	鹿沼市	2,410
12	春日部市	2,101
13	益子町	1,886
14	桜川市	1,812
15	日光市	1,666
16	久喜市	1,635
17	さくら市	1,391
18	野田市	1,189
19	下妻市	1,043
20	高根沢町	1,039
21	佐野市	1,038
22	つくば市	1,034
23	野木町	1,030
24	幸手市	1,012

駅しもつけへの来訪者は下野市近隣市町及び新4号国道の沿線市町が多いと言えます。

道の駅しもつけは、下野市観光入込客数において80%を超える集客力があり、道の駅利用者を市内に点在する観光資源への周遊を促すハブスポットとしての役割を担っています。

現状では、下野市及び道の駅しもつけへの具体的な来訪理由は不明なため、36ページ記載の「観光振興に向けた来訪者アンケート」を実施し、下野市への来訪理由、最終的な目的地、来訪者の満足度やニーズなどを把握したうえで、道の駅しもつけを核とした観光の創出に努めます。



道の駅しもつけの売り場風景

#### 道の駅しもつけHP



※スマートフォン等で左記QRコードをスキャンするとホームページが表示されます。  
(通信費が別途かかります。以下、同様です。)

## 4 下野市の観光資源の特色

### (1) 歴史遺産の宝庫

下野市には、以下のとおり各地区に様々な国・県・市指定の文化財（史跡、建造物、考古資料）が点在しており、歴史遺産の宝庫であるとともに、古くから下野国の中心であったことが分かります。

#### ① 国指定文化財

南河内地区：下野薬師寺跡

国分寺地区：下野国分寺跡、下野国分尼  
寺跡、小金井一里塚、甲塚  
古墳出土品



下野国分寺跡

#### ② 県指定文化財

南河内地区：薬師寺八幡宮

石橋地区：児山城跡

国分寺地区：国分寺愛宕塚古墳、丸塚古墳

#### ③ 市指定文化財

南河内地区：六角堂、藤磨墳、道鏡塚、鑑真和尚之碑

国分寺地区：オト力塚古墳、紫の五輪塔（伝紫式部墓）、現国分寺五輪塔、北台  
遺跡（推定東山道跡）

下野市文化財バーチャル  
ミュージアム



甲塚古墳出土品（機織形埴輪）



六角堂

#### ④ その他

南河内地区：薬師寺復元回廊、薬師寺（旧安国寺）、地藏山、三昧場、御鷲山古  
墳、天狗山雷電神社、龍興寺、薬師寺城跡、三王山南塚1・2号墳  
ほか

石橋地区：孝謙天皇神社、開雲寺、華蔵寺、星宮神社 ほか

国分寺地区：甲塚古墳、山王塚古墳 ほか



薬師寺復元回廊

## (2) 施設

下野市には、前述のとおり豊富な歴史遺産があり、それらの資料館も充実しています。中には、高精度のCGにより再現したバーチャル映像を、ARアプリを使用して見せるサービスなどを展開しています。

その他、温浴・プール施設や公園なども充実しています。

### ① 資料館

南河内地区：下野薬師寺歴史館

国分寺地区：しもつけ風土記の丘資料館、栃木県埋蔵文化財センター

### ② 温浴・プール施設

南河内地区：ふれあい館温水プール

国分寺地区：ゆうゆう館天平の湯（露天風呂）

グリムの館HP



### ③ 公園等

南河内地区：三王山ふれあい公園、別処山運動公園

石橋地区：グリムの森・グリムの館、お菓子の家（グリムの森内）、大松山運動公園

国分寺地区：天平の丘公園、古民家カフェ「夜明け前」、蔓巻公園（オートキャンプ場）、国分寺運動公園



三王山ふれあい公園空撮



ケガした電車を助けた電車

#### ④ 商業施設

南河内地区：道の駅しもつけ

石橋地区：石橋地区都市農村交流施設（ゆうがおパーク）

#### ⑤ その他

石橋地区：JR石橋駅前からくり時計

国分寺地区：オアシスポップ館、ケガをした電車を助けた電車（日酸公園内）

※それぞれの施設の場所は、17ページの図によりご確認ください。

### （3） 季節ごとの多彩なイベント

春の天平の花まつり、夏には盆踊り・花火大会、秋には直径2.5mの大鍋を用い約3千食分の芋汁を提供する天平の芋煮会、冬はグリムの森イルミネーションなど四季を通じて多彩なイベントが開催されています。

その他に神社仏閣や地域でも様々な行事開催されています。

#### ① 春（4～6月）

石橋地区：星宮神社太々神楽

国分寺地区：天平の花まつり

#### ② 夏（7～9月）

南河内地区：かんぴょうまつり、エコライフまつり、エゴマ灯明の会

石橋地区：いしばし納涼踊り・花火大会、石橋愛宕神社八坂祭（みんなの祭りおみこし広場）、古山のかかし祭り（星宮神社）、グリムの森フェスティバル

国分寺地区：国分寺地区コミュニティ踊り花火大会、しもつけフェスティバル



しもつけフェスティバル



エゴマ灯明の会

### ③ 秋（10～12月）

南河内地区：吉田村まつり、薬師祭（自治医科大学  
学園祭）、薬師寺八幡宮秋まつり、市民  
農園まつり、産業祭

石橋地区：グリムの森イルミネーション

国分寺地区：天平の芋煮会



グリムの森イルミネーション

### ④ 冬（1～3月）

南河内地区：下野薬師寺跡史跡まつり

石橋地区：柴燈大護摩供法要・火渡り式（開雲寺）

国分寺地区：天平マラソン

## （4） 自然

下野市は、温暖な気候と鬼怒川、田川、姿川の豊かな水の恵みを受けた肥沃な平野が広がる自然災害の少ない地域です。また、日光連山や筑波山、冬の空気の澄んだ日には遠く富士山を望むことができます。また、環境省の絶滅危惧種に指定されているトウサワトラノオの保全地もあります。

下野市内：姿川、田川、鬼怒川、祇園原の松林、トウサワトラノオ ほか

下野市外：筑波山、男体山と日光連山、大平山、富士山

## （5） 農産物と地産地消 【多品目の農産物・多くの直売所】

市内で生産される農作物の中には、全国生産1位のかんぴょう、県内1・2位のほうれんそう、ごぼう、きゅうり、玉ねぎ、はくさい、かぼちゃなど、全国・県内トップクラスのものが多数あり、ブランド化や地域資源を活用した6次産業化が推進されています。

また、これらの生産物を販売する直売所も多く設けられ、生産者と消費者との交流も図られています。

## ① 主な農産物

かんぴょう、ほうれんそう、ごぼう、きゅうり、玉ねぎ、はくさい、かぼちゃ、米、イチゴ、キャベツ、なす、レタス、ねぎ、にんじん、かぶ、スイートコーン  
ほか



夕顔の実



かんぴょうを干しているところ

## ② 直売所・農村レストラン

南河内地区：JAうつのみやグリーンセンター

石橋地区：下野市石橋地区都市農村交流施設（通称：ゆうがおパーク）、JA  
おやま「四季彩」、中大領「やさいの停車場」

国分寺地区：ふれあいショップ国分、かたかご亭、JAおやま国分寺農産物直売  
所、しばなん直売所、レストハウスしもつけ



ゆうがおパークの売り場風景

下野市は、数多くの古代遺跡、施設、多彩なイベント、おだやかな自然環境、豊富な農産物など恵まれた環境にあることから、これらを活用し、目指すべき将来像を明らかにして、効果的な観光施策の展開を図ります。



## 5 下野市の観光の課題

### 課題1 観光資源と連携した新たな事業の創出

下野市には、下野国分寺・国分尼寺跡、下野薬師寺跡や様々な古墳などの史跡、これらに関連するしもつけ風土記の丘資料館や下野薬師寺歴史館などの資料館、ドイツの建物をイメージしたグリムの館などがあります。

また、「天平の花まつり」、「天平の芋煮会」及び「グリムの森イルミネーション」といった観光イベントがあります。

しかしながら、平成29（2017）年の観光入込客数236万人から、道の駅しもつけの利用者197万人、天平の花まつりの来場者20万人、グリムの森イルミネーションを開催しているグリムの森・グリムの館の12月期来場者8万5千人を差し引いた下野市への来訪者は10万5千人ほどであり、この状況から下野市の観光は道の駅しもつけ及び大きなイベントによるところが大きいことが分かります。

既存のイベント等の来場者の増加はもとより、全体的な観光入込客数の増加を図るため、それぞれの観光資源と連携した新たな事業を創出し、市民の参加及び市外からの誘客を図る必要があります。

### 課題2 近隣市町との連携

下野市は、首都圏から1時間半程度の距離にありますが、下野市の北部には宇都宮市や日光市、那須町といった観光地があり、市内に宿泊施設も少ないことから、通過型の観光とならざるを得ない状況です。

栃木市や壬生町など近隣市町も同様の状況にあることから、新たな来訪者をより多く迎えるために、下野市単独ではなく、近隣市町と連携した観光施策を展開する必要があります。

### 課題3 天平の丘公園の再整備

下野市最大の観光イベント「天平の花まつり」の会場となる天平の丘公園には、桜をはじめとする様々な種類の樹木がありますが、一部は老木化しており、計画的な更新が必要です。

特に淡墨桜については、容易に更新ができないため、子孫樹の育成といった取組が必要となります。

その他にも、公園内の駐車場や四阿などの施設が老朽化しており、管理上の課題が数多くあります。

天平の丘公園を市民に気持ちよく利用していただくために、また、イベント開催時のみならず、通年で集客を見込めるような再整備を、現在策定を行っている「下野市歴史的風致維持向上計画」との連携を取りながら、計画的に進めることが必要です。

#### 課題4 歴史文化資源を活用した観光振興

本市では、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）に基づき、下野市歴史的風致維持向上計画を策定しており、下野薬師寺及び国分寺・国分尼寺が重点区域になっております。

これらの史跡や市内に点在する古墳、東山道や日光街道の街道筋など、本市が有する豊かな歴史文化資源を活用した観光振興を進めることが必要です。



歴史文化資源の活用  
(下野薬師寺ボランティアによる説明)

#### 課題5 インバウンド<sup>(注)</sup>への対応

観光庁では、平成32（2020）年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、東京・大阪などに集中しているインバウンド増加の効果を全国津々浦々に届けることを課題としています。

本市においても、外国人観光客の呼び込みや実際に来訪された外国人観光客への対応を積極的に行う必要があります。

<用語解説>インバウンドとは

外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。

## 第3章 下野市の観光振興の基本方針

### 1 基本方針

全国的に、少子高齢化や生産年齢人口の流出により、地域の活力が低下していく中、観光客による消費を地域産業へ波及させることで地域の活性化が促されます。

下野市には多数の歴史遺産があり、また、近年新たな観光資源となりうる様々な施設がオープンしました。それらと従来からある地理的・歴史的特性を融合し活用することで、魅力ある観光を創出することが可能であると考えます。

また、創出した魅力ある観光を、見せ方を工夫し、迅速に情報を発信することで、下野市へ興味を持ち、来訪してもらえるような仕掛けが必要です。

そして、来訪者が何度も訪れたいと感じるには、施設の整備に加え、おもてなしの心といったソフト面の充実も必要不可欠な要素です。

これらを踏まえ、本計画では、新旧の観光施設を連携し、来訪者が何度も訪れたい観光の創出を基本方針とします。

### 2 計画期間及び指標

指標については、前計画に引き続き、観光入込客数を用いることとし、計画最終年の平成35（2023）年における観光入込客数は266万人を目標とします。

この数値目標の根拠は、第二次下野市総合計画における観光入込客数の伸び率が2%であることから、本計画においても同様の割合を用います。

下野市観光入込客数年次別目標数 (単位：万人)

年	H31年 (2019)	H32年 (2020)	H33年 (2021)	H34年 (2022)	H35年 (2023)
目標数	246	251	256	261	266
延べ増加数	5	10	15	20	25

※平成29（2017）年の観光入込客数236万人をベースに、平成30（2018）年においても2%増を見込み241万人を基準とします。

# 第4章 下野市の観光振興における体系

## 1 施策・事業一覧

基本施策1 魅力ある観光の推進		
施策1-1 観光プロモーションの推進		
事業(1)	東の飛鳥プロジェクトの推進	22
事業(2)	道の駅しもつけを核とした観光の創出	23
事業(3)	自治医科大学を活用したPR活動	23
事業(4)	イメージキャラクターによるPR推進	24
施策1-2 観光協会の充実・強化 【重点施策】		
事業(1)	観光協会の機能強化	25
事業(2)	観光情報発信の強化	26
事業(3)	地域限定旅行業務取扱管理者の養成	26
事業(4)	観光ボランティアの育成・支援	27
事業(5)	観光自転車の活用	28
施策1-3 観光施設の環境整備・充実		
事業(1)	天平の丘公園再整備	29
事業(2)	緑のエリアの観光資源化	30
事業(3)	自然に親しめるまちづくり	30
事業(4)	観光案内媒体の充実	31
事業(5)	街角景観の向上	31
施策1-4 郷土愛の醸成		
事業(1)	郷土学習(ふるさと学習)の推進	32
事業(2)	しもつけ観光ファンクラブの設立	33
事業(3)	観光事業従事者の人材育成	33
基本施策2 観光資源の創出		
施策2-1 新たな観光資源の開拓 【重点施策】		
事業(1)	観光ルートの再構築	34
事業(2)	下野市におけるグリーン・ツーリズムの推進	35
事業(3)	商工会と連携したイベントの創出	36
事業(4)	観光振興に向けた来訪者アンケートの実施	36
事業(5)	季節ごとのイベントの創出	37
事業(6)	農業体験の観光資源化	37
施策2-2 下野ブランドの拡充・活用		
事業(1)	下野ブランド推進事業	38
事業(2)	「下野の淡墨桜」のブランド化	39
施策2-3 広域観光との連携・推進		
事業(1)	栃木県との連携	40
事業(2)	広域連携による観光商品の創出支援	40
基本施策3 インバウンド対策		
施策3-1 インバウンド対策		
事業(1)	外国人観光客の誘客	41
事業(2)	多言語対応マップの作成	41
事業(3)	観光ガイド等の多言語対応	42

※表中右端の数字は、各事業の掲載ページになります。

## 2 施策の展開

### 基本施策1 魅力ある観光の推進

#### 施策 1-1 観光プロモーションの推進

##### 事業(1) 東の飛鳥プロジェクトの推進

本市には古墳時代から飛鳥・奈良時代にかけての東国を代表する史跡等が多数所在しており、この歴史的特性が有する観光資源としての価値は古代飛鳥地方（奈良県）に匹敵するほどです。こうしたことから、平成28（2016）年度に「歴史文化基本構想」を策定しました。

今後は、構想に基づき、本市に所在する数多くの文化遺産を観光資源として総合的に活用していくため「東の飛鳥プロジェクト（注）」を推進します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
風土記の丘資料館	リニューアル工事		リニューアルオープン	
		PRパンフレット・グッズの作成・販売		
	下野市の歴史文化を活用した観光振興事業による環境整備			
		全国国分寺サミットの開催		
		下野薬師寺・国分寺指定100周年記念事業の開催		
主担当課	文化財課			
関係課・団体等	下野市の歴史文化を活用した観光振興協議会			



下野薬師寺史跡祭りにおける上三川高校書道部によるパフォーマンス



薬師寺跡VR

#### <用語解説>東の飛鳥プロジェクトとは

平成28（2016）年度に策定した「下野市歴史文化基本構想」に基づき、下野薬師寺跡や下野国分寺・国分尼寺跡など飛鳥時代から奈良時代にかけての史跡を活用し、観光につなげるプロジェクト。文化財情報発信事業、文化財観覧ガイドの養成、「東の飛鳥」PR事業を行う。

## 事業（２） 道の駅しもつけを核とした観光の創出

「道の駅しもつけ」は、下野ブランドの認定品、下野市産の野菜及び加工品などを提供し、市内で最多の集客数を誇っています。

主力商品である新鮮な野菜は、利用者の来駅目的の一つとなっており、市内外へのPRに一役買っています。

今後は、「道の駅しもつけ」をハブスポットに、史跡めぐり、カフェめぐり、ご当地アニメの聖地巡礼など、駅利用者等がテーマごとに周遊できる観光ルートを創出します。

また、「道の駅しもつけ」がより魅力的な施設になるよう同駅への体験型施設等の設置、及び慢性的な駐車場不足の解消に向け、関係課及び関係団体等との調整を行います。

実施時期（年度）				
31	32	33	34	35
周遊ルート検討		周遊ルート周知・検証		
	マップ作成	検証結果に基づくマップ再作成		
		文化財ガイドアプリの運用		
		アニメの聖地巡礼スタンプラリー		
体験型施設等の設置、及び駐車場拡大についての調整	体験型施設等の設置、及び駐車場の整備			
主担当課	商工観光課、文化財課			
関係課・団体等	総合政策課、農政課、都市計画課、道の駅しもつけ			

## 事業（３） 自治医科大学を活用したPR活動

自治医科大学には全国から学生が集まり、卒業後には、地元や全国の様々な地域において医療に従事しています。赴いた地域において下野市のPRをしてもらえるよう、学生に対して観光資源の周知やイベントへの参加について働きかけを行います。

また、同大学附属病院の来院者に対しても、市内周遊につながる観光PRを図ります。

実施時期（年度）				
31	32	33	34	35
	イベントポスター掲示依頼（自治医大構内、寮内など）			
	自治医科大学附属病院来院者への観光PRの実施			
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等				

## 事業（４） イメージキャラクターによるPR推進

道の駅しもつけのイメージキャラクター「カンピくん」及びまろに☆えーるの「瓜田瑠梨」が本市の観光大使になっています。

これら観光大使の市内外のイベントへの参加や、キャラクターグッズの作製・販売により市のイメージアップと観光PRを推進します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
		鉄道博、道の駅関係イベントへの参加		
キャラクターグッズ検討	キャラクターグッズ作成			
		アニメキャラクターを活用したイベント等の開催		
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	総合政策課、下野市観光協会			



下野市観光協会販売しているキャラクターグッズ

## 施策 1-2 観光協会の充実・強化 【重点施策】

### 事業(1) 観光協会の機能強化

平成25(2013)年7月に一般社団法人下野市観光協会となり、平成29(2017)年度にはプロパー職員を採用するなど、観光協会の機能強化を図りましたが、行政と観光協会の役割について、混在している部分も残っている状況です。

今後、行政との役割分担を整理し、新たな観光資源の発掘やイベントの創出、グッズ作成・販売を行い、本市の観光事業の活性化を図ります。

実施時期(年度)				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
	商工観光課・観光協会の定例会の実施			
	新たな観光資源の発掘、イベント創出の検討			
	グッズの作成・販路拡大			
	市内店舗との協働によるアニメ関連グッズの開発・販売			
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	総合政策課、下野市観光協会			



オアシスポップ館(下野市観光協会)外観  
小金井駅ロータリー側

下野市観光協会HP



コミュニティFM完成予想図

## 事業（２） 観光情報発信の強化

下野市を知る人・知らない人のいずれも下野市へ呼び込むためには、観光施設や観光ルート、及び各種イベントの情報発信が不可欠です。

ホームページの定期的な更新、パンフレット類の刷新、コミュニティFMや新聞・CATVなどマスメディアの活用など、下野市へ来ていただくための情報発信、来訪者のための情報提供など、より下野市へ来なくなる観光情報の発信を図ります。

実施時期（年度）				
31	32	33	34	35
	観光パンフレット見直し検討	観光パンフレット見直し	新たな観光パンフレット活用	
市・協会作成パンフレットの整理				
	イベント実施時のマスメディア（コミュニティFM・新聞・CATV等）へ依頼			
	観光協会HPの定期的更新			
	フィルムコミッション活動の充実強化			
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	下野市観光協会			

## 事業（３） 地域限定旅行業務取扱管理者の養成

着地型観光の企画運営を行うには、地域限定旅行業務取扱管理者の資格が必要であり、現状では観光業者が企画したツアーで来訪した方々への関わりは、お出迎えや観光資源の説明が主なものになっています。

今後、観光協会が主体となり、ツアーの企画・運営を実施するために、観光協会内での資格取得者を養成します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
資格取得者養成				
		地域限定旅行業務		
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	下野市観光協会			

## 事業（４） 観光ボランティアの育成・支援

天平の花まつりの際など、観光ボランティアの存在は欠かせないものとなっており、「東の飛鳥プロジェクト」など観光振興を進めるうえで、ますますボランティアの協力が必要となります。

市内の観光ボランティアの活動、後継者養成の支援及び行政・観光協会・観光ボランティア団体間の連携を図ります。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
	ガイドボランティア（薬師寺・国分寺）合同研修の開催			→
	市広報等によるガイドボランティア募集			→
	文化財観覧（かんこう）ガイド養成講座の開催			→
	文化財観覧（かんこう）ガイド協議会の支援			→
主担当課	商工観光課、文化財課			
関係課・団体等	下野市観光協会			

※文化財に光をあてる（晃）という意味を込めて「観光」を「観晃」と表記しています。



天平の丘観光ボランティアの会



下野薬師寺ボランティアの会

## 事業（５） 観光自転車の活用

下野市には小金井駅、自治医大駅、石橋駅の3駅があり、鉄道による来訪者もありますが、市内には路線バスが走っていない状況にあります。

市内の地形が概ね平坦であることから、二次交通として観光自転車を下野市観光協会、自治医大駅及び石橋駅の駐輪場、道の駅しもつけ、古民家カフェ、三王山ふれあい公園に配備し、点在する観光資源までのアクセス手段としての活用を図ります。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
		サイクリングマップの整備		
		レンタサイクルの配備箇所検討		
いた 痛チャリの配備				
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	総合政策課、下野市観光協会			



いた  
痛チャリ



観光自転車

## 施策 1-3 観光施設の環境整備・充実

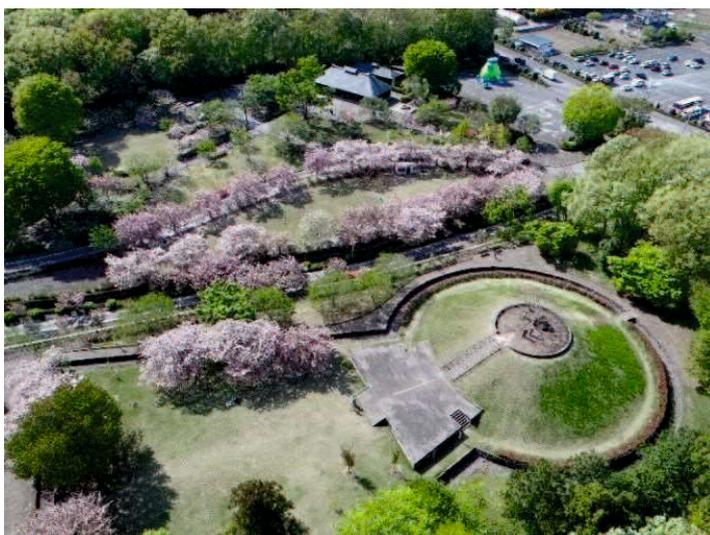
### 事業（１） 天平の丘公園再整備

天平の丘公園内には、淡墨桜や八重桜をはじめとする様々な植物、四阿などの休憩施設などがあり、毎年4月の天平の花まつりの期間には、多くの来場者があり賑わっています。

しかしながら、桜の老木化、休憩施設や駐車場の老朽化など、管理上の課題が数多くあります。

天平の丘公園を市民に気持ちよく利用していただくために、また、イベント開催時のみならず、通年で集客を見込めるよう、桜などの樹木の植え替えや、老朽化した施設の修繕、更新などを計画的、かつ、適正に取り組むための指針づくりを、「下野市歴史的風致維持向上計画」との連携を取りながら実施します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
基本計画策定	→			
		実施計画策定・工事（ゾーン単位で実施）		→
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等				



天平の丘公園空撮（古民家カフェ、国見山上空）



天平の丘公園で開催した燈桜会（とうおうえ）

## 事業（２） 緑のエリアの観光資源化

緑あふれる公園は、その景観が心にやすらぎをもたらし、園内の木陰は夏の強い日差しを遮り涼が得られるなど、人が集う要素に満ちています。

下野市には、天平の丘公園、三王山ふれあい公園、グリムの森、大松山運動公園など大きな公園がたくさんあります。これらの平地林や植栽などの適正な管理を行い、公園の利用者拡大を図ります。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
		天平の丘公園 定期的管理		
		下野市緑地等管理業務委託での樹木等管理		
		指定管理者（一財）グリムの里いしばしによる管理運営		
		大松山運動公園 定期的管理		
主担当課	商工観光課、都市計画課、生涯学習文化課、スポーツ振興課			
関係課・団体等	下野市造園建設業協同組合、（一財）グリムの里いしばし			

## 事業（３） 自然に親しめるまちづくり

下野市は、姿川や田川、鬼怒川などの河川が流れ、市内全域に豊かな田園風景が広がっています。

この豊かなふるさとの自然を守るため、河川のクリーン作戦による河川環境保全や絶滅危惧種植物のトウサワトラノオの保全やホタルの里づくりなども行われています。

今後も各種団体と連携し、環境保全活動を継続しながら、自然に親しめるまちづくりを推進します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
		農村環境保全会及びトウサワトラノオ保存会活動への支援		
		姿川クリーン作戦		
		鬼怒川小貝川クリーン作戦		
主担当課	農政課、建設課			
関係課・団体等	トウサワトラノオ保存会、鬼怒川・小貝川流域ネットワーク会議、国土交通省下館河川事務所			

#### 事業（４） 観光案内媒体の充実

既存の地図情報サイト「しもつけシティーガイド」において、各観光施設や観光ルートについて掲載がありますが、ナビゲーション機能がないことから利用が低調な状況にあります。

観光施設・ルートや飲食店などの案内が可能なアプリの導入などを検討します。

また、アプリを使用できない方のための観光地図の作成やこれまで取り組んできた観光案内看板等の整備についても、継続して実施します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
観光アプリ検討		観光アプリ導入		
	観光案内看板の調査		観光案内看板の整備	
		文化財マップの充実		
主担当課	商工観光課、文化財課			
関係課・団体等				

#### 事業（５） 街角景観の向上

鉄道を利用して下野市を訪れた際の玄関口となるJR3 駅前や街角などに、季節の花植えを行い、おもてなしの心を表し、下野市の魅力を感じてもらう活動を推進します。

実施時期（年度）				
31	32	33	34	35
		下野市緑化推進委員会活動への支援		
		駅前広場花いっぱい運動		
主担当課	商工観光課、農政課			
関係課・団体等	下野市緑化推進委員会、下野市商工会・石橋商工会			

## 施策 1-4 郷土愛の醸成

### 事業（１） 郷土学習（ふるさと学習）の推進

来訪者をおもてなしするには、市民自身が下野市の歴史、文化を知り、愛着を持つといった郷土愛の醸成が必要と考えます。

郷土愛の醸成には学齢期からの取組みが重要であることから、副読本「下野市の伝説」や「下野市ふるさとかるた」などを活用した郷土学習、郷土の歴史に関する講座や親子向けの体験講座の実施を推進します。

小・中学校では、各校の特色を出した「ふるさと学習」を充実させ、平成31（2019）年度から始まる「しもつけ未来学習」をとおして、下野市の良さを発見し、その良さを英語を使って外へ向けて発信する学習を推進します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
ふるさと学習の実施（下野市の伝説、ふるさとかるた、社会科副読本の活用）				
しもつけ未来学習の推進（しもつけ未来学習を通して下野市のよさを英語で外へ発信）				
下野市の伝説、下野市ふるさとかるたの販売による市民への周知				
学校へのお出前講座、資料館での親子向け体験学習等の実施				
マンガで紹介する東の飛鳥しもつけ社会科資料集				
主担当課	総合政策課、学校教育課、文化財課			
関係課・団体等				



下野市の伝説、下野市しもつけかるた

### 事業（２） しもつけ観光ファンクラブの設立

下野ブランドをはじめとする下野市の特産品のPRやイベントの開催時の情報発信やお手伝いなど、下野愛を持って市の観光を盛り上げ、来訪者のおもてなしを行う、しもつけ観光ファンクラブを設立します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
ファンクラブのあり方検討				
要綱整備	ファンクラブの設立・活動			
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等				

### 事業（３） 観光事業従事者の人材育成

下野市を訪れた方々に「また来たい」と思ってもらえるよう、各種研修会やイベント開催後の検証などを通して、観光事業従事者の人材育成を図ります。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
花まつり検証	検証	検証	検証	検証
検証結果に基づく準備	準備	準備	準備	準備
研修会の検討	研修会の実施			
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	下野市観光協会			

## 基本施策2 観光資源の創出

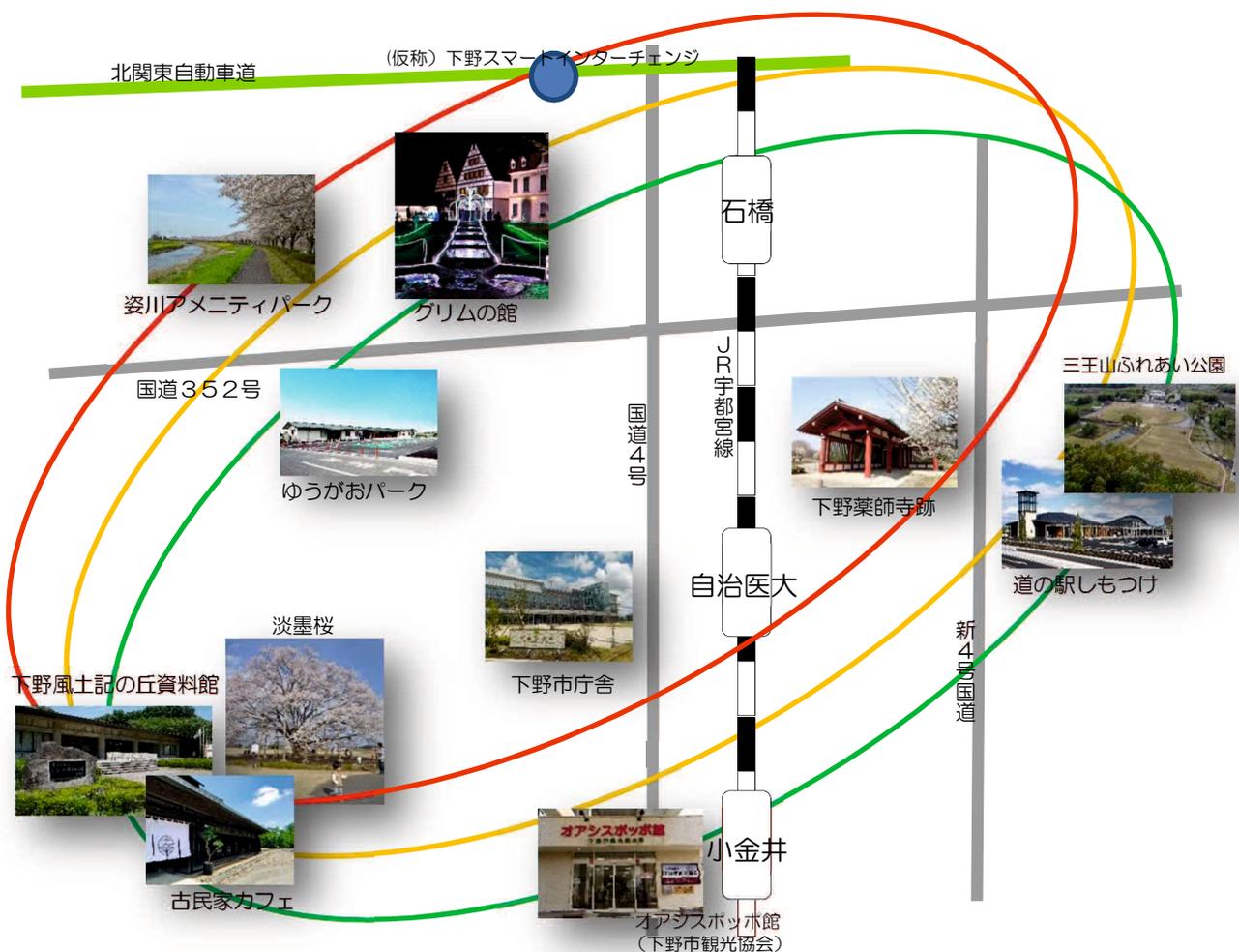
### 施策 2-1 新たな観光資源の開拓 【重点施策】

#### 事業(1) 観光ルートの再構築

下野市には従来からある観光資源に加え、ゆうがおパークや古民家カフェ、お菓子の家など、新たなスポットがオープンしたことから、これらの観光資源のネットワーク化を行い、観光客の滞留による消費行動の増加を図ります。

また、史跡、神社仏閣、カフェなどテーマごとに巡るルートの構築も行います。

実施時期(年度)				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
新たなスポットを含めた ルート検討		ルート検討(随時)		
	しもつけシティガイドへの反映			
	聖地巡礼MAP作成・スタンプラリーの実施・協賛店舗の募集			
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	総合政策課			



## 事業（２） 下野市におけるグリーン・ツーリズムの推進

近年、スローフード、スローライフに対する関心が高まり、都会を離れ、農村などゆったりとした環境で余暇を過ごすグリーン・ツーリズム<sup>(注)</sup>が脚光を浴びており、本市には豊かな自然と田園風景が広がる農村地域があり、まさにグリーン・ツーリズムにうってつけの環境となっています。

また、本市の農村地域には旧吉田農協倉庫（本吉田、築 50 年超、大谷石造り）、ツバキヤ（下古山、築 100 年超、木造）、古民家カフェ「夜明け前」（国分寺、築 150 年超、木造）といった趣のある建築物が点在しております。

これらの趣のある建築物を本市の観光資源と位置づけ、事業（農泊やイベント等）として活用する際の支援を通して、下野市におけるグリーン・ツーリズムの推進を図ります。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
		事業実施にかかる支援		
主担当課	農政課、商工観光課			
関係課・団体等				



ツバキヤ

古民家カフェ「夜明け前」



旧吉田農協倉庫

<用語解説>グリーン・ツーリズムとは

緑豊かな農山漁村でゆっくりと滞在し、訪れた地域の人々との交流を通じて、その自然、文化、生活、人々の魅力に触れ、農山漁村でさまざまな体験などを楽しむ余暇活動のこと。

### 事業（３） 商工会と連携したイベントの創出

下野市商工会、石橋商工会との共催で産業祭を毎年開催しており、今後も継続していきます。また、商工会等まちづくり事業補助金により、市内商工会等によるイベント開催を支援し、市外からの来訪者の増加を図ります。

実施時期（年度）				
31	32	33	34	35
		産業祭		
		まちづくり事業		
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	下野市商工会・石橋商工会・産業祭実行委員会			

### 事業（４） 観光振興に向けた来訪者アンケートの実施

道の駅しもつけ、ゆうがおパーク、古民家カフェなど、市内の主だった観光資源において、来訪者の満足度やニーズ調査のためのアンケートを実施し、今後の観光施策の参考とします。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
アンケート内容検討				
アンケート実施				
	----- アンケート結果の検証・反映 -----			
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等				

### 事業（５） 季節ごとのイベントの創出

下野市には春は「天平の花まつり」、秋は「天平の芋煮会」といった市内外に認知されたイベントがあり、多くの来訪者で賑わっています。

通年で下野市の観光を盛り上げるため、他自治体の事例やJRなど観光事業者の情報を参考に、季節ごとの魅力ある大型イベントの創出を実施します。

実施時期（年度）				
31	32	33	34	35
イベント検討	イベント検討	イベント検討	イベント検討	
	イベント実施	イベント実施	イベント実施	イベント実施
		観光事業者との情報交換		
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	下野市観光協会			

### 事業（６） 農業体験の観光資源化

下野市農業公社やゆうがおパークなどが実施する田植え、稲刈り、芋掘りなどの農業体験をはじめ、吉田地区における農泊と連携し観光資源化を推進します。

また、これらの活動を通して、都市と農村の交流による地域振興、農業に関心を持った方の新規就農・移住を図ります。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
農業体験イベントの検討		農業体験イベントの開催		
主担当課	農政課			
関係課・団体等	下野市農業公社、企業組合すがたがわ（ゆうがおパーク）			

## 施策 2-2 下野ブランドの拡充・活用

### 事業（１） 下野ブランド推進事業

現在、ブランドは加工品 16、観光 4、技術 2、自然・景観 2、農産物 4、料理 1、歴史 5 の計 34 件が認定され、下野市のPRやふるさと納税の返礼品として活用しています。

今後も新たなブランドの拡充、ブランド認定品の販路拡大等を推進し、かつ、輝け下野エール大使を効果的に活用し、下野市のPR及び下野ブランドの推進を図ります。

※輝け下野エール大使一覧（8組9名）

宇賀地 洋子（彫刻家）、山中 一馬（能楽師）、落合 英二（プロ野球コーチ）、  
ザ・たち（お笑い芸人）、下野 紘（声優）、高藤 直寿（柔道家）、  
雨澤 毅明（プロロードレース選手）、一葵 さやか（漫画家）

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
新規ブランド品 認定作業 →	新規ブランド品 認定作業 →	新規ブランド品 認定作業 →	新規ブランド品 認定作業 →	新規ブランド品 認定作業 →
	ブランドフェア、広報などによるブランドの周知			
	輝け下野エール大使を活用したイベントの開催（年1回）			
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	下野市観光協会			



## 事業（２） 「下野の淡墨桜」のブランド化

現在、天平の丘公園内に 8 本の淡墨桜が植えられていますが、老木化が進んでいる状況にあります。

淡墨桜を後世にも残すため、また、「下野の淡墨桜」としてブランド化し、苗木を全国へ配布・販売するために、子孫樹の栽培について検討します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
	淡墨桜の子孫樹栽培の調査・研究・実施			→
	ブランド化検討			→
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等				



天平の丘公園の淡墨桜

## 施策 2-3 広域観光との連携・推進

### 事業（１） 栃木県との連携

栃木県観光交流課との情報交換・連携を図り、また、栃木県観光物産協会や栃木県アンテナショップ運営会議、栃木県国際観光推進会議などへ参加し、県内外及び国外へのPR活動を推進します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
観光物産協会、アンテナショップ運営会議、国際観光推進会議への参加				
主担当課		商工観光課		
関係課・団体等				

### 事業（２） 広域連携による観光商品の創出支援

下野市内の観光ルートの再構築を別の事業において実施しますが、これらと近隣市町（栃木市や壬生町など）の観光資源を組み合わせることで、より幅広い観光ルートの創出が可能となり、東武鉄道沿線からの集客も見込めるようになります。

広域連携による観光ルートを研究し、研究結果を旅行会社へ提案、観光商品の創出を図ります。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
近隣市町との調整	近隣市町との調整	近隣市町との調整	近隣市町との調整	近隣市町との調整
旅行会社への提案	旅行会社への提案	旅行会社への提案	旅行会社への提案	旅行会社への提案
主担当課		商工観光課		
関係課・団体等		下野市観光協会		

## 基本施策3 インバウンド対策

### 施策 3-1 インバウンド対策

#### 事業(1) 外国人観光客誘客

平成32(2020)年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、栃木県国際観光推進会議を中心に外国人観光客の誘客に向けた取組を県レベルでは実施しています。

本市においては、単独での誘客は困難であるため、宇都宮市、日光市(日光、鬼怒川)、那須町など、外国人観光客の多い地域に働きかけ、下野市への立ち寄りを促します。

		実施時期(年度)				
		H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
市内観光事業者との調整	→					
他地区観光協会等との調整						
		イベントに合わせ、外国人観光客への働きかけの実施 →				
主担当課	商工観光課					
関係課・団体等	下野市観光協会					



ミュンヘン大学生の受け入れ

### 事業（２） 多言語対応マップの作成

外国人観光客を誘客した際に使用できる多言語（英語、中国語（簡体、繁体）、韓国語）対応マップを作成し、観光協会をはじめ、主要観光施設において配布します。

また、副次的な効果として、下野市内在住の外国人の方々にも下野市内の観光資源を案内でき、最終的にクチコミによる外国人観光客の誘客を図ります。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
翻訳作業 →				
マップ配布先の調整 →				
		多言語対応マップの配布		→
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	下野市観光協会			

### 事業（３） 観光ガイドの多言語対応

外国人観光客を案内するには、一方的な説明ではなく、双方向の対話による案内が必要となります。

しかし、そのような対応をするには言葉の壁があり、それは一朝一夕には解消できない課題となっています。

今後、外国人観光客の増加を見込んだ場合、双方向による多言語対応としてICT技術等を含めた対策を検討します。

実施時期（年度）				
H31(2019)	H32(2020)	H33(2021)	H34(2022)	H35(2023)
国際交流協会との連携協議 →				
ICT技術導入の検討 →		システム導入		→
主担当課	商工観光課			
関係課・団体等	下野市観光協会			

# 第5章 計画の推進

## 1 計画推進と進捗評価の考え方

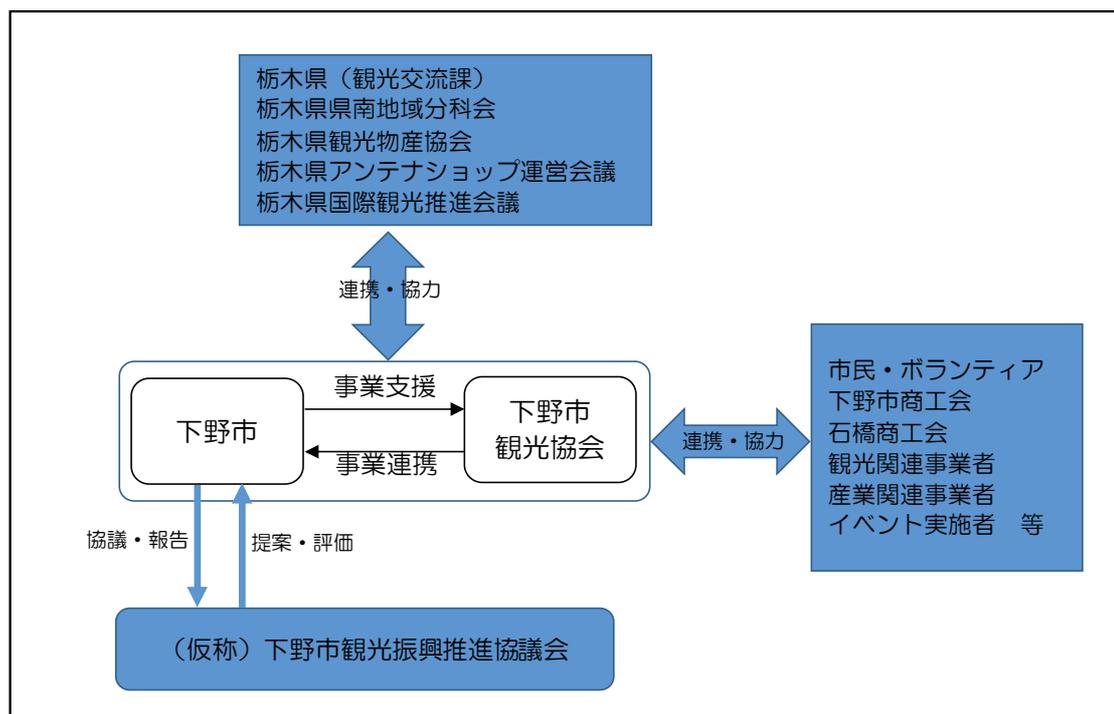
### (1) 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、行政だけではなく、観光協会、商工会、観光関連事業者、産業関連事業者、市民、ボランティア等が協働し、様々な取組を推進していく必要があります。

そのためには、関係者が連携してネットワークを形成することで、観光振興の相乗効果が期待されます。

また、平成31（2019）年度に（仮称）下野市観光振興推進協議会を立ち上げ、本計画の進捗状況の評価や観光振興に関する事案の協議等を行い、下野市の観光振興を推進します。

#### <連携のイメージ>



### (2) 進捗管理

毎年度1回、商工観光課において前年度までの各事業の進捗状況を取りまとめ、（仮称）下野市観光振興推進協議会が進捗状況の評価を行い、計画の推進に努めます。

また、変化する来訪者のニーズに速やかに対応するため、計画期間内であっても、必要に応じて事業の統合や新規事業の立ち上げなどを柔軟に行います。

## 2 市と観光協会の役割の明確化

### (1) 市の役割

市は、観光振興に関する総合的な計画を策定し、計画に則した具体的な観光施策の企画・立案を行います。具体的な内容は以下のとおりです。

- ・下野市観光振興計画の策定及び進捗管理
- ・県、他自治体との広域的な連携による情報収集や事業の運営
- ・下野市の観光振興に係る施策の企画・立案

### (2) 観光協会の役割

市の役割が「企画・立案」であるのに対し、観光協会は観光振興計画及び同計画に附随する観光施策を実施するための「実働」が役割となります。

具体的な内容は以下のとおりです。

- ・観光地の宣伝紹介及び観光客の誘致
- ・観光資源の保護開発
- ・下野ブランド認定品をはじめとする特産品及び文化財等、地域資源の宣伝
- ・観光振興を目的とする施設の管理事業
- ・観光に関する出版物の刊行
- ・観光に関する調査研究
- ・他の観光関係機関との連絡協調

※観光資源の範囲については、第2章の4「下野市の観光資源の特色」に記載のあるものを対象とします。

## 資料1

### 下野市観光振興計画（第二次）策定委員会設置要綱

#### （設置）

第1条 観光振興の基本的な施策や推進体制などを定める下野市（第二次）観光振興計画を策定するため、下野市観光振興計画（第二次）策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

#### （所掌事務）

第2条 委員会は、下野市観光振興計画（第二次）（以下「計画」という。）の策定に関する事項について協議し、その結果を市長に報告する。

#### （組織）

第3条 委員会は、委員16人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- （1） 下野市産業振興部長
- （2） 一般社団法人下野市観光協会事務局長
- （3） 旅行事業者
- （4） 交通事業者
- （5） 飲食業者
- （6） 関係機関、関係団体の代表
- （7） 市民グループの代表
- （8） その他市長が必要と認めた者

#### （任期）

第4条 委員の任期は、委嘱の日から計画の策定の日までとする。

#### （委員長及び副委員長）

第5条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は下野市産業振興部長の職にある者を、副委員長は一般社団法人下野市観光協会事務局長の職にある者をもって充てる。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、これを開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数の時は、委員長の決するところによる。

4 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(報償)

第7条 会議に出席した委員のうち市民グループの代表等には、次の表のとおり報償費を支給する。

委員	日額 3,000円
----	-----------

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、産業振興部商工観光課において処理する。

(その他)

第9条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公布の日から施行する。

(下野市観光振興計画策定委員会設置要綱の廃止)

2 下野市観光振興計画策定委員会設置要綱(平成25年下野市告示第5号)は、廃止する。

(この告示の失効)

3 この告示は、計画策定の日をもって効力を失う。

## 資料2

## 下野市下野市観光振興計画（第二次）策定委員会委員名簿

No.	氏名	役職	所属	備考
1	瀧澤 卓倫	委員長	下野市産業振興部長	行政
2	荒川 弘幸		下野・壬生タクシー事業者協議会 会長	交通業
3	倉田 真嗣		(株)栃木交通ツアー 営業部長	旅行業
4	本橋 久子		天平の花まつり出店協力会 会長	飲食業
5	杉谷 一男		下野薬師寺ボランティアの会 会長	市民団体
6	中村 恭子		天平の丘観光ガイドボランティアの会 会長	市民団体
7	有野 一夫		下野市ウィンター活性化推進協議会 委員長	市民団体
8	鈴井 祐孝		下野市観光協会観光戦略推進委員会委員長	市民団体
9	山口 貴明		(一社)シモツケクリエイティブ 代表理事	市民団体
10	後藤 勲		(株)道の駅しもつけ 支配人	道の駅
11	石田 孝雄		企業組合すがたがわ 専務理事	石橋南部都市 農村交流施設
12	橋田 一成		(株)栃木銀行 小金井支店長	金融機関
13	森田 賢一		下野市商工会事務局 課長	商工会
14	本橋 充夫		石橋商工会事務局 課長	商工会
15	川嶋 恵美子	副委員長	(一社)下野市観光協会 事務局長	観光協会
16	黒川 弘		下野市農業公社 事務局長	農業公社

<下野市観光振興計画（第二次）策定委員会開催日程>

	開催日時	議事内容
第1回	平成30(2018)年7月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 下野市観光振興計画の進捗状況について</li> <li>• 第二次下野市観光振興計画（案）について</li> </ul>
第2回	平成30(2018)年9月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第二次下野市観光振興計画（案）について</li> </ul>
第3回	平成30(2018)年12月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 第二次下野市観光振興計画にかかるパブリックコメント結果について</li> <li>• 第二次下野市観光振興計画（案）について</li> </ul>

# 第二次下野市観光振興計画

平成31(2019)年1月

発 行

下野市産業振興部商工観光課

栃木県下野市笹原26番地

電話 : 0285-32-8907

e-mail : syoukoukankou@cty.shimotsuke.lg.jp